



## 新学習指導要領の目標と教科化のポイント

**新学習指導要領改訂へ。先行実施用に3～6年生の新教材を開発、今年中に各学校へ配付。**

新学習指導要領において小学校高学年で新設される外国語科では、聞くこと、話すことに、読むこと、書くことが加わります。目標と教科化のポイントを紹介します。



### 小学校外国語科の目標案（下線および※は編集部）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

※以下①～③は「知識・技能」「思考・判断・表現力等」「学びに向かう力、主体性等」の資質・能力の3つの柱それぞれの目標となる。

1

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

2

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

3

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。



### 新設される外国語科のポイント：内容、評価、教材整備など

高学年ではコマ数が倍増し、評価は他教科と同様に観点別評価になります。文部科学省では先行実施用に3～6年生向けの新しい教材を開発中で、年内に各学校に配付されます。

●時間数：現在 年間35単位時間（週1コマ）⇒ **70単位時間 週あたり2コマへ。**増加分は各校で柔軟な時間割編成を行う。

●内容：「**聞くこと**」「**読むこと**」「**話すこと（やりとり）**」「**話すこと（発表）**」「**書くこと**」の5つの領域別の目標の実現を目指す。

※新しく加わる「読むこと」「書くこと」は、「①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づき、③語順の違いなど文構造への気づき」等、言葉の仕組みの理解などを促す指導を行う。学習指導要領案では、**heやsheなどの代名詞や、基本的な過去形などを扱う**ことも示されている。600-700語程度の語を指導。

●指導者：学級担任の教師または外国語を担当する教師が指導計画を作成。授業実施にあたっては、ネイティブ・スピーカーや地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図る。

●評価：他教科と同様の**観点別評価**。評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つ。

●教材整備：先行実施に向け、**3-6年用の新教材を開発し、平成29年12月に配付予定。**内容は児童用冊子、教師用指導書、教室用デジタル教材ほか、研修用資料なども。

●新教材についての年間指導計画素案、紙面の一部は以下からご覧になれます。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm)